
平成30(2018)年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成30(2018)年8月17日
栃木県農業環境指導センター

ブドウミタマバエ(仮称)のブドウでの発生について

- 1 害虫名 和名：ブドウミタマバエ(仮称) (ハエ目：タマバエ科)
学名：*Asphondylia* sp.
- 2 発生作物名：ブドウ (品種：シャインマスカット)
- 3 発生経過
 - (1) 平成30年6月に、日光市の雨よけ栽培のシャインマスカットにおいて、果粒の奇形化が確認された。奇形化した果粒を切開したところ、タマバエ科蛹の寄生が認められた(写真1、写真2、写真3)。上地奈美博士(農研機構果樹茶業研究部門生産・流通研究領域虫害ユニット)に同定を依頼した結果、ブドウミタマバエ(仮称) *Asphondylia* sp.と判明した。
 - (2) 分布及び発生状況
国内では平成24年に初めて確認され、現在までに、福島県と宮城県で発生が確認されている。なお、平成29年に福島で特殊報の報告がされている。栃木県内では、日光市の2園地(シャインマスカット)において確認されている。
- 4 被害の特徴
寄生された果粒は虫こぶが発生する。被害果粒は異常肥大し奇形化するが、その後肥大が止まるため、正常果粒の肥大に伴って目立たなくなる。ブドウの成熟期に寄生された果粒の虫こぶは、奇形・肥大化しないため、正常な果粒との区別は難しいが、蛹殻が果面に残ることがある。
- 5 形態及び生態
 - (1) 幼虫は3齢を経る。3齢幼虫(終齢)は黄白色で、1.2~2mmの大きさである。幼虫は果粒中心の隙間に生息しており、その付近の果肉表面が褐色に変色しているが、果肉の食害は認められない。
 - (2) 蛹は体長2.5mm程度、褐色で果粒中に見られ、果粒表面に穴をあけて体を半分果粒外に出して羽化し、蛹殻は果粒表面に残る(写真4、写真5)。
 - (3) 成虫は雄翅長2.5~3.3mm、雌翅長は3~3.5mmの大きさであり、発生時期は6~8月である(写真6)。
 - (4) 産卵は開花期に果粒(子房)中にされると考えられる。幼虫は果粒中に1頭ずつ寄生し、寄生された果粒は異常肥大し奇形化するため、正常果粒の肥大に伴って目立たなくなる。
- 6 防除対策
 - (1) 開花後の6月中旬ごろに寄生果粒・果房を除去し、水漬けにする等適切に処分する。この時期以降は正常果粒の肥大が進み、寄生果粒との区別が困難になるため、適期を逃さないように注意する。
 - (2) 寄生が確認された品種以外にも本種が寄生するおそれがあるので、果房をよく観察し、疑わしい果房は適切に処分する。



写真1 ほ場の様子 (シャインマスカット)



写真2 奇形化した果粒



写真3 正常な果粒 (左) と奇形化した果粒 (右)



写真4 ブドウミタマバエ蛹



写真5 ブドウミタマバエ蛹殻



写真6 ブドウミタマバエ成虫

7 引用文献

福島県(2017)平成29年度病害虫発生予察特殊報第1号

佐々木正剛ら(2018):植物防疫 第72巻第2号 33~37.

詳細は、農業環境指導センター (Tel 028-626-3086) までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センター ホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。